

## 15. 中足骨の神経線維肉腫(Neurofibrosarcoma in metatarsus)

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者名	清水,みどり
発行元	鶏病研究会
巻/号	39巻1号
掲載ページ	p. 46
発行年月	2003年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## 鶏病カラーシリーズ

### 15. 中足骨の神経線維肉腫 (Neurofibrosarcoma in metatarsus)

キーワード：末梢神経，中足骨，神経線維肉腫



写真 1. 左中足骨部の腫瘍で、足関節から中足趾関節にかけて前側に膨隆している。

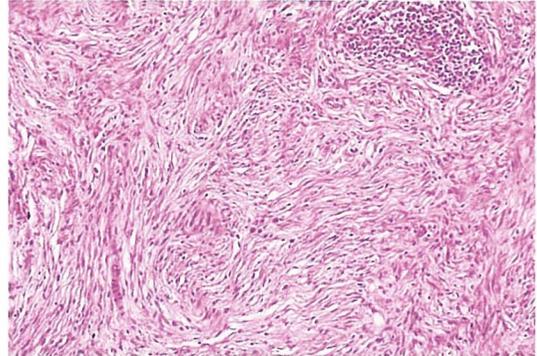


写真 2. 中足骨部腫瘍では、紡錘形細胞が不規則な走行を示す線維性組織でありリンパ球の集簇像も認められる。HE 染色。

動物：66日齢，雄，ブロイラー（マローネ）

発生状況および症状：1ロット1,400羽のうちの1羽に認められた。

肉眼所見：腫瘍は左中足骨部及び腹腔内～右大腿骨内側の2箇所に認められた。左中足骨部の腫瘍は、12×6×4 cmで、足関節から中足趾関節にかけて前側に膨隆していた（写真1）。腫瘍断面は乳白色・充実性で硬く、出血・壊死はほとんど見られなかった。腹腔内の腫瘍は、10×5×2 cmで、右腎中葉から右坐骨孔，右部恥坐骨孔およびその周囲の坐骨，恥骨の一部を取り囲み，右大腿骨内側に達していた。断面は中足骨部の腫瘍と同様であった。その他臓器に著変は認められなかった。

組織所見：各腫瘍は紡錘形細胞が不規則な走行を示す線維性組織であり，索状，同心円状，波状の細胞配列が見られた（写真2）。組織は充実性であるが，粘液様変性を伴う疎な部分も認められた。また，一部リンパ球の集簇像も見られた。腫瘍細胞はエオジンに淡染する限界不明瞭の細長い細胞質を持ち，核は不正形で円形から長楕円形，細長く湾曲するものも認められた。核小体は不明瞭であり，クロマチンは微細でスリガラス様であった。腫

瘍細胞の核は多形性であり，分裂像が散見されること，浸潤性に増殖する部位があることから悪性と思われた。アザン染色では腫瘍組織が青染し，渡辺鍍銀法では発達した線維の間に細い好銀線維が認められた。抗 S-100 蛋白抗体を用いた免疫染色では，陽性像が認められた。  
解説：神経線維腫は，末梢神経系の腫瘍で，孤立性にあるいは多発性にあらわれる。本症例は左中足骨と腹腔内～右大腿部の2箇所に発生したもので，その組織像は神経線維腫の特徴を備えており，構成する腫瘍細胞には異形性が認められた。また，神経性腫瘍のマーカーである抗 S-100 タンパク抗体を用いた免疫染色が陽性であることから神経線維肉腫とした。

著者：清水みどり（Midori Shimizu），群馬県北部食肉衛生検査所，〒377-0027 群馬県渋川市金井 2842-33